

- 先月、妹が南三陸町に行きました。町の状況を聞き、今回申し込みをしました。家を空けられないので行って何かをすることは難しいですが、金銭・物品で協力できることがあれば協力したいと思っています。暑い日が続くので、どうぞみなさまお体を大切になさってください(東京都)
- タコ漁の復活の一助にしてください(千葉県)
- 2011年9月、知人を見舞うため、岩手県釜石に行きました。お見舞いのつもりが、車で津波被害の跡を南三陸まで案内していただきました。入り江という入り江、港という港がすべて津波の被害を受けて、未だ整理されていない場所も多く、そのなかで南三陸復興タコの会にお邪魔し、活動に感銘を受けました。この度、貴会の寄付募集をしり、タコ漁復興に役立てば、と申し込みさせていただきました。みなさん、頑張ってください(神奈川県)
- 2011年夏、2012年夏と2度南三陸町を訪れました。今年は家族で被災地を訪ね、子ども達も被害の実情をしっかりと目に焼き付けたようです。復興商店街のうに井、最高においしかったです。タコ漁の復活を願っています(岡山県)
- 頑張ってください(大阪府)
- 日経新聞みました。実家が南三陸の志津川。両親が山口に避難してきている。少しでも力になれば(山口県)
- 遠くから応援しています。頑張ってください(愛知県)
- 南三陸町に、語り部バスに乗りにいきました。ホテル観洋に泊まり、みなさん頑張ってほしいと強く思いました(千葉県)
- 気持ちだけです…(宮城県)
- 志津川には数回ボランティアで伺っていて、すっかり水だこのファン(特に頭)になってしまいました。色々大変なことが多いと思いますが、皆さん身体に気を付けて頑張ってください(兵庫県)
- 大学時代青森十和田で東北の皆様大変お世話になりました。皆様の少しのお役に立てれば幸いです(千葉県)
- 三陸(岩手)出身なので応援しています(東京都)
- たいしたことはできませんが頑張ってください(大阪府)
- ずっと頑張っている方に、これ以上頑張れなんて言えません。昨日より今日、今日より明日が少しでも良い日になれるよう、祈っています(東京都)
- 私も志津川生まれ育ちで実家も流されてしまいました。皆様の頑張りを応援したく、気持ちだけ送りました(東京都)
- タコは志津川!志津川はタコ!ですよね。復興を待っています(宮城県)
- 絶対忘れません!頑張ってください(埼玉県)
- 観洋に泊まって3日間応援ツアーに参加し、いろいろ見て帰ってきたら丁度この案内を見た。頑張ってください(静岡県)

- 目標金額を達成されて、志津川に活気が戻ってきますように。そして皆様の健康を心から願っております(東京都)
- 南三陸町へは先日3度目のボランティアに行かせて頂きました。みなさんとても良い人達ばかりで、これからも南三陸町に足を運びたいと思っています。志津川のタコとっても美味しく食べる度に感動します!(東京都)
- 働く気はあるのに、機会にめぐまれれないというのは辛いものです。兵庫県出身の私としては、明石のライバルではあるものの(笑)、志津川にエールを送りたいと思います(東京都)
- 復興に向けて頑張ってください。東京より支援しています(東京都)
- 頑張ってください(東京都)
- 8月26日に寄らせて頂きました。なにもお手伝いできませんが、今年だけでなくまた行こうと思ってます。元気を出して(東京都)
- 機会をつくってまた行きたいと思います(埼玉県)
- 8月にホテル観洋に泊まり、リーフレットを読みました。8月中に寄付をとっていましたが、できなかったのも、また別でと思っていたのですが、HPで延長されていることを知り、少しですが送ることにします。岡山県に住んでいますので、瀬戸内のタコ、牡蠣、境港のカニ等に馴染みがあるのですが、志津川のタコという名前をどこかで耳にできたらなあと思っています。タコ漁・漁業・関係者の皆様によろしくお伝え下さい(岡山県)
- タコ漁がまた元の通りになりますように微力ながら応援しております(宮城県)
- 応援しています。頑張ってください(宮城県)
- 皆さんの頑張りで、志津川のタコはほかのどのタコよりも価値のあるものになるでしょう。とにかく、健康に気を付けてください。同じ日本人としてずっと応援しています(大阪府)
- 2012年4月、はじめて南三陸町を旅しました。がれきの処理、町の高台移転、産業の復興が1日も早く進展することをお祈りいたします(神奈川県)
- 志津川タコ復活に期待してます!!(宮城県)
- 志津川復興には時間が必要です。広く日本全土に協力を呼びかけて下さい。協力者は多いと思います(兵庫県)
- 2011年から南三陸町には5回行っています。土壌づくりや、若布のたねつけもお手伝いしました。これからも続けます。がんばりましょう(千葉県)
- 中小企業診断士復興支援委員会を担当しています。早期の復興のために尽力申し上げます(東京都)
- まちの復興に向けた活動や取組のPRをもっと積極的に、仮設の商店街等でもされてはどうでしょうか(東京都)
- 応援してます(岡山県)

タコにまつわる8つのストーリー

プロジェクト開始時に南三陸町に関わる方々にお話しを聞き、ウェブサイトで公開しました。
※2012年5月にウェブサイトへ掲載したものを、再掲しています。情報は2012年5月時点のものです。

ストーリー 1

漁師さんからのメッセージ

夜8時。暗い海の中船を沖へと走らせ、夜明け前からタコ漁の始まり。海に仕掛けておいた籠のついた紐をリールで巻き上げていきます。籠には重さ10kgを超える立派なタコ。タコ同士が共食いをしないように素早くネットに入られます。船のスピーカーからは演歌。「疲れたときは、やっぱり演歌を聞くと元気がでんだ」とは、漁師の星さん。暴れる大きなタコとの格闘、暗い海の上での作業…。タコ漁は、大変な重労働です。

震災時、船の上で漁の準備をしていた漁師の星さんは、船を津波のない沖へと走らせなんとか船を守りました。しかしほとんどの漁師さんは船や漁具を津波で喪失。海の中は津波によってがれきだらけになり、とても船を走らせられる状態ではありませんでした。そしてしばらく漁師さんたちはがれき処理や農業の手伝いなどを行っていたといいます。この間にも「海は、漁はどうなってしまうんだ」という焦りは募るばかりでした。

タコ漁再開への思い

そんな中、星さんは「やっぱり俺は漁師だ。タコで飯を食うんだ」と立ち上がりました。がれきが残る海の中、もしがれきにぶつかったら船が壊れてしまう。海の



▲タコ漁を行う漁師の皆さん

状態も分からない。本当に漁ができる?そんな周囲の声を押し切り、タコ漁を再開させました。そこまでして漁の再開へと駆り立てたものは何だったのでしょうか。

「やっぱり俺は漁師だっや。俺が漁を始めることで、他の漁師たちが『あいつが漁をしているなら、俺もやっぺ』と競争心を燃やしてくれたらいいよな。漁師は競争してなんぼだから」。星さんの思いが届き、何とか船を出せる8隻が2011年のタコ漁を行いました。

漁師としての誇り

「俺ら漁師はガキの頃から漁師。だから、これ以外考えられないんだ」と語る星さん。共に生きてきた海への愛、南三陸町の主軸産業である漁業を支えてきた漁師としての誇りをにじませます。漁にかける並々ならぬ思いは、星さんだけでなく漁に関わる人たちにとっても同じこと。漁の復興＝南三陸町の復興と言っても過言ではありません。「志津川のタコは最高だ。本当はみんな志津川に遊びにきてほしいよ、食べてもらったら分かるからさ」。

今年の7月には多くの漁師さんがタコ漁を再開し、また志津川漁港に立派なタコがズラリと並ぶことが漁師さんの願いであり、このプロジェクトの願いでもあります。



▲2011年は8隻がタコ漁を再開